

学校名	宮城県農業高等学校
-----	-----------

平成 26 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール  
事業計画書

## I 委託事業の内容

## 1. 研究開発課題名

「日本最古の農業高校 震災・津波から復活の取組み！地域で活躍する就農者増加に向けて」  
～志・知・技を持った就農者増加へのV字回復～

## 2. 研究の目的

平成 24 年度の卒業生のうち、進路を農業大学校への進学・農業法人への就職・自営・研修とした割合は 7%であったことから、本研究を通じてその割合を 20%にすることを目指し、下記の取り組みを行う。

## 3. 実施期間

契約日から平成 27 年 3 月 13 日まで

## 4. 当該年度における実施計画

活動時期	活動の内容
	教員
4 月	専門教員の一次産業見直し 各学科テーマに沿った農業法人や農家の選定
5 月	
6 月	農業法人や農家への訪問・意見聴取（5カ所）
7 月	↓ 運営指導委員会
8 月	中間報告・改善案検討
9 月	↓ 農業法人や農家への訪問・意見聴取（5カ所）
10 月	実施報告
11 月	各学科テーマに沿った指導方法の検討
12 月	中間報告
1 月	各学科テーマに沿った指導方法の確立 <b>運営指導委員会</b>
2 月	次年度に向けたプログラム等の決定
3 月	文部科学省へ事業完了報告書等を提出

## 5. 実施体制

## (1) 研究担当者

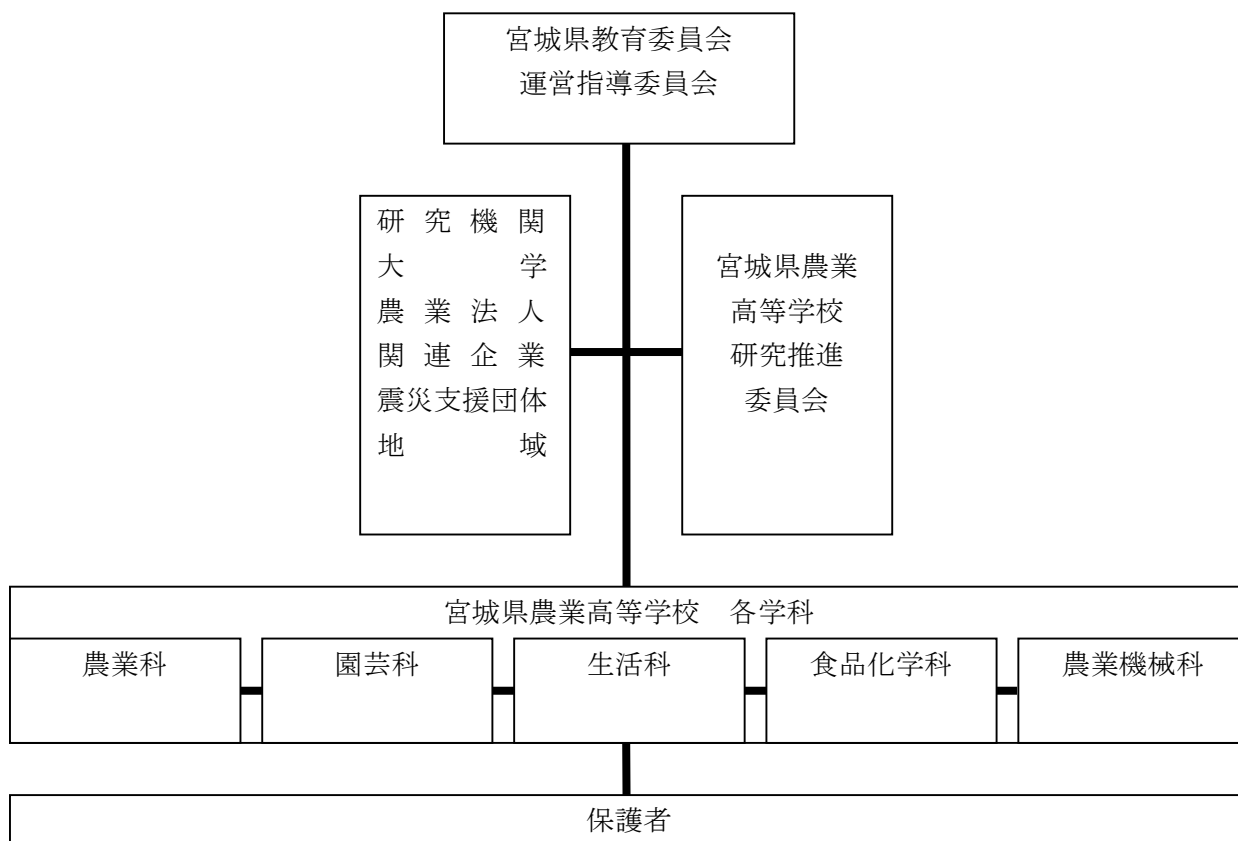
氏名	職名	役割分担・担当教科
赤井澤 徹	教諭(農業科長)	農業科担当 科内調整 畜産担当
佐藤 淳	教諭	農業科担当 作物担当
佐藤 孝志	実習助手	農業科担当 作物担当
柳渕 拓伸	教諭	農業科担当 畜産担当
渥美 勇人	実習助手	農業科担当 畜産担当
阿部 由	教諭(園芸科長)	園芸科担当 科内調整 露地野菜担当
大池 朋美	教諭	園芸科担当 草花担当
山舘 嘉昭	実習助手	園芸科担当 草花担当
佐々木明子	教諭	園芸科担当 施設栽培担当
鈴木 浩史	実習助手	園芸科担当 施設栽培担当
高橋 知樹	教諭	園芸科担当 施設栽培担当
千葉 拓	実習助手	園芸科担当 施設栽培担当
昆野 慶太	教諭	園芸科担当 果樹担当
早坂 史郎	実習助手	園芸科担当 果樹担当
富田 勝利	教諭	園芸科担当 造園担当
平間 直人	実習助手	園芸科担当 造園担当
渡部 剛実	教諭(生活科長)	生活科担当 科内調整
佐藤 信一	実習教諭	生活科担当
橋浦 勉	教諭(食品化学科長)	食品化学科担当 科内調整
長内 志郎	教諭	食品化学科担当
佐々木 盛敏	教諭	食品化学科担当
高田 乃里子	教諭	食品化学科担当
山根 正博	実習助手	食品化学科担当
菊池 裕子	実習助手	食品化学科担当
石橋 哲雄	教諭(農業機械科長)	農業機械科担当 科内調整
戸村 祐太	教諭	農業機械科担当
須田 和行	実習助手	農業機械科担当
菊地 逸人	実習助手	農業機械科担当

## (2) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割・専門分野等
伊澤 裕樹	宮城県教育庁 高校教育課 主任主査(指導主事)	指導助言
佐々木 英一	宮城県農業高等学校 校長	委員長
高野 知行	〃 教頭	副委員長
遠藤 可淑	〃 事務室長	会計業務

川口 友和	〃	農場長	全体調整・評価分析
荻山 富一	〃	農場副部長	〃
赤井澤 徹	〃	農業科長	科内調整
阿部 由	〃	園芸科長	〃
渡部 剛実	〃	生活科長	〃
橋浦 勉	〃	食品化学科長	〃
石橋 哲雄	〃	農業機械科長	〃

(3) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

学科	農業科	園芸科	生活科	食品化学科	農業機械科
1年目	①農業担当教員の技術力やその実践力の向上 ②農政の変化をふまえた農業教育の実施 ③農業に対する理解者を増やす				
方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業担当教員一人10カ所の農家・農業法人等とのネットワーク構築</li> <li>・研修発表会の実施</li> <li>・機関誌・HPなどの広報の充実</li> <li>・報告書の作成</li> </ul>				
2・3年目	④各学科において魅力的な農業モデルを通じた実践的な学習の実施				

方法	品質管理 食味計を使って外観・硬さ・粘りなどを測定し品質を向上させる。	企業連携 企業等と連携プロジェクトを組んで、低コスト生産技術体系の確立を図る。	地域連携 連携プロジェクトを組んで、企業・地域イメージの向上を図り地域活性化を図る。	小中連携 連携プロジェクトを組んで、食育の推進のための指導・実演を実施する。	企業連携 企業等と連携プロジェクトを組んで、自然エネルギーを活用した農業施設の確立を図る。
	流通経路開拓 企業と連携し販路拡大調査や海外販路の構造調査を行う。	省力化確立 ロボット技術、ICTの活用により超省力・高品質生産を可能とする農業の実現に向けて、他産業との連携を図る。	伝統野菜保護 消費者向けの流通が消滅した原因を探り、伝統野菜を復活させ消費拡大を目指す。	地産地消 元食材の新たな活用法を提案し、商品化に向けた取組を行うことで、地産地消を進める。	省力化確立 地域資源を活用したエネルギー供給を行う次世代型園芸施設を建設する。
	市場調査 海外の日本食ブームによるコメ消費動向の調査・嗜好の調査を行う。	経費削減 スマート農業の導入によりより省力化農業を実現させ、初期投資後の経費削減を図る	流通拡大 生産・流通・販売におけるコスト要素面を再検討し企業連携の中で流通拡大を検討する。	観光農園 摘み取り体験だけでなく、見せる農園・見る農園による人が集まる観光農園のモデルを検討。	経費削減 スマート農業の導入によりより省力化農業を実現させ初期投資後の経費削減を図る。
	知的財産 パッケージやデザイン保護など海外の取り巻く環境から保護の在り方を学習する。	高品質生産 生産から調製・出荷までを一貫した管理でより高品質の生産を実現させる。	農村文化継承 伝統芸能や農村文化を継承し、祝い事や先人の知恵を保護する活動を実践する。	体験型農業 作物を育てる、料理を作る、食べるなどの食や農の体験活動を実践させる。	環境教育 環境に配慮した取り組みを出前授業をとおして指導・実践させる。
	実施場所	本校水田 仮設校舎	園芸科圃場 仮設校舎	生活科圃場 仮設校舎	仮設実習棟 食品加工室
研究機関	民間企業 大学 各研究所	民間企業 農業法人 大学 各研究所	地方自治体 民間企業 農業法人 大学 各研究所	近隣小中学校 民間企業 農業法人 大学 各研究所	民間企業 農業法人 大学 各研究所
<p style="text-align: center;">農業改良普及センター，宮城大学，宮城県公衆衛生協会 宮城県農業・園芸総合研究所，JA名取岩沼，名取市婦人部 県内農業法人，その他民間企業 (全て予定)</p>					

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交 付 者	交 付 額	交付年度	業務項目
なし				

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

(○) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

( ) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

※有の場合、別紙様式3に詳細を記載のこと。

II 委託事業経費

別紙様式1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙様式2に記載